

第2回万葉文化館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 2018年8月10日(金) 10時30分~12時
- ◇会場 奈良県立万葉文化館
- ◇参加者 梅原(西宮甲英高等学校)、中矢(佐保台小)、中澤哲(平群北小)、井上(万葉文化館)、北村・中澤(奈良教育大)

◇内容

1. 前回の振り返り:「万葉集」と明日香

- 万葉クイズ 寒いと書いて「ふゆ」と読ませる
暖と書いて「はる」と読ませる
朝鳥と書いて「あさひ」 太陽信仰
二八十一 「にくく」は「に」と九九
十六は「しし」
掛け算九九はすでにあった
山上復有山 「やまのうえにまたやまあり」で「出」
◇かたいイメージをくずす



飛鳥と明日香

- 雪は当時、めでたいもの 祝福のあかし
- 一夫多妻で別居婚 夫人: 臣下の中でも身分の高い者(三位以上)
皇后: 皇族に限る
内親王: 皇族
嬪 : 地方豪族出身

明日香の宮と藤原の宮は意外と近い

これは心の中の距離(かつては天皇になるかもしれなかった自分が今は忘れられている)

明日香(音にも忠実な読み)

- 飛鳥: 木簡資料にある 当時すでに飛ぶ鳥と書いて飛鳥と読ませることが定着していた
(とぶとりのあすか という枕詞的な修飾語と一緒に用いられた): 豊かな土地
(まくらことばは、今は意味がないものとされているが、かつては意味があったのでは)

元興寺(今の世界遺産)

- 故郷の明日香 (明日香はふるさととして捉えられていた): なつかしく
- 平城の明日香 (平城京のあすか)
あをによし は平城京のまくらことば ほめる意味がある
※漢字の使い方がゆるい(意味だけ、音だけ、両方): はじめから意味ありきではない
語り物 リズムにのせて歌う方が覚えやすい

外来の文化の流入によって、日本人を意識し始めた時代 : 日本文化を形づくった

- 白村江の戦い後 様々な国の人々が明日香に住んでいた。
話す聞くはできないが読み書きはできない
話す聞く文化を書き始めたものが万葉集

歌垣でも聞いて覚えたことをやり取りして結婚相手を探していた
意味を重要視しはじめたのは、日本書紀や古事記からか。

文化の多様性

中澤哲：万葉集を活用した授業づくり

現在の漢字が平安時代以前にはどんな漢字で表されていたのか

万葉仮名一覧表

たたみこも平群

昔の地名を万葉仮名で書くとどうなるか

奈良時代に良い文字二文字で地名を表すよう命令があった

市町村単位の地名

